

平成 30 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 教授
氏名 Name	藤原 克美
専門分野 Academic Field	ロシア・ソビエト経済論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ソビエト「消費社会」の研究
<p>科研費 (C)「不足のなかの「消費社会」」の研究として、昨年度に実施したインタビューをもとに、“Consumption in the Soviet Union during the 1960s and 1970s: A Case Study of Daily Life”を <i>The Journal of Comparative Economic Studies</i> (JSCES) に発表した (No.13, 2018, pp.129-155)。また、同誌では、昨年度実施した国際カンファレンスの概要を “An Empirical and Historical Study of Socio-economic Stratification and Wealth Disparity in Russia” という題で紹介した (pp.99-101)。</p> <p>また、京都大学経済研究所プロジェクト研究「ポスト移行経済における国家と市民社会の関係に関する国際比較研究」の共同研究者として、9月7日に Warsaw School of Economics において開催された EACES (欧州比較経済学会) で、“Russian Consumers and the State in the Globalized World – A Case Study of the Fashion and Apparel Industry – ”というタイトルで報告を行った。同内容は、11月7日に京都大学で開催された Kyoto International Workshop “Advanced Study on Transition Economics and Comparative Economics”においても披露した。2019年1月26日に京都大学で開催された国際カンファレンス (Civil Society, Firms, and Government in Post-Transition and Emerging Economies) では“Russian Consumer Power under Sanctions”というタイトルで報告を行った。</p> <p>科研費 (B)「東北アジア辺境地域多民族共生コミュニティ形成の論理：中露・蒙中辺境に着目して」(代表：岡洋樹東北大学教授) では、2019年1月27日に富山大学で開催されたシンポジウム「北東アジアの鳴動：朝鮮半島，中露国境地域，蒙中露辺境」(共催：北東アジア学会) において「満洲国における百貨店の役割」というタイトルで報告を行った。また、2月5～7日にロシア科学アカデミー民俗学・人類学研究所のプシュカリョヴァ・ナタリア氏を招へいし、9日には生田美智子大阪大学名誉教授とともに国際カンファレンス「非日常における女たち：戦争、動員、抑留、戦後」を開催した。報告者は第一部の「戦争前夜の満洲」でコメンテーターを務め、第二部のムヒナ・ジナーラの報告原稿「女性と戦争：戦時における女性の個人生活 (1943年のスターリィ・オスコルールジャヴァ間鉄道建設を例として)」を翻訳した。2月11日～22日には米国ワシントン D.C.の National Archives and Records Administration と Library of Congress において中国のロシア人に関する資料収集を行った。</p>	